

情報共有

(非管理メモ) 2枚

官邸班

NISA 阿部 ← フォリス対派チーム

(東電合室のみ)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時: 平成 23 年 6 月 1 日 (水) 11:00~11:30

場所: 東京電力本館 3 階大会議室

先方: 記者約 35 名 (カメラ 4 台)

当方: 原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料:

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて【6月1日 午前9時現在】
- ・ 福島第一原子力発電所プラント関連パラメータ【6月1日 6:00 現在】
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水核種分析結果【5月31日採取分】
- ・ 集中廃棄物処理施設 サブドレンピット水位測定結果
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリング結果 他
- ・ 「福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について (第六十九報) の一部訂正について

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑:

Q. 循環型海水浄化装置を設置する目的は。

A. 2号機、3号機のピットから流出した高濃度汚染水が取水口カーテンウォール内にあり、装置を通じて汚染水のセシウムを除去する目的である。

Q. 海底土のサンプリングは行っているのか。結果はどうだったか。

A. 物揚場付近で一度海底土のサンプリングを行っている。結果としては、γ核種が通常より高いということが分かっている。

Q. 今後、福島第一原子力発電所へ入港する船へのバラスト水への対策は。

A. 今後、どのような船が入港する予定なのかも含めて確認中である。

Q. 循環型海水浄化装置の電源復旧はいつになるか。本日中に試運転が始まる可能性はあるのか。

A. 現在、電源の状態を調査中なので、いつ頃復旧するのかは未定である。電源復旧が遅れれば試運転も同時に遅れることになる。屋外の作業なので夜に実施するのかはまだ分からない。

Q. 循環型海水浄化装置の試運転のスケジュールは4日間のままで良いか。

A. スケジュールとしては変わらず4日間と見ており、漏洩の確認、ポンプの性能を確認する予定である。

- Q. 循環型海水浄化装置のセシウム除去能力効果が数十%とあるが、具体的な数値を教えてください。
- A. ゼオライトの吸着能力としては $30\text{m}^3/\text{h}$ の水量でセシウムを6~7割低減できると思うが、最終的には、実際に装置に入れた水と出ていく水を核種分析することで除去能力を判断していきたい。
- Q. 1~3号機の原子炉への注水量を下げている理由は。
- A. 溜まり水の量を増やさない観点から圧力容器の温度が上がらない程度に、原子炉内で発生している残留熱に見合う形で注水量を絞り込んでいるためである。
- Q. 原子炉への注水量を目標値まで下げていくことと雨による溜まり水が増加していることに関係性はあるか。
- A. 現在、発熱量は1号機が1.4MW、2、3号機は2MW程度であり、それに見合う原子炉の注水量として、若干多めに入れている。3号機は温度が不安定だったこともあり、注水量が多めだったが、今後下げていく予定。1、2号機の原子炉注水量では既に $5\text{m}^3/\text{h}$ であり、どれだけ下げていくかは圧力容器の温度を監視しながら検討していく。タービン建屋の溜まり水は雨により少し増加しているが、それによって、原子炉への注水量を絞るのではなく残留熱に見合った形で絞っていき、溜まり水の量の増加を抑制していく。
- Q. 1号機原子炉建屋の水位が6mm下がっているが漏えいの可能性はないのか。
- A. 6mm程度の変動なので温度による膨張などの理由ではないかと思う。タービン建屋の水位に顕著な変化は見られていないので、タービン建屋への漏えいはないと思う。また、1号機の原子炉建屋の溜まり水の水位より地下水の水位の方が高いため、地下水に漏えいすることはないと思う。
- Q. 昨日、ポンペが爆発した箇所のがれき撤去作業は本日も実施しているのか。
- A. 本日も4号機原子炉建屋南側のほぼ同じ箇所のがれきの撤去作業を実施予定。作業開始前に現場を慎重に確認したうえで実施したいと考えている。
- Q. 雑固体廃棄物減用処理建屋の水位と地下通路の水位差ほどの程度か。
- A. 昨日午前11時時点で約3cmの差であり、雑固体廃棄物減用処理建屋の水位はO.P. 2, 120mm、地下通路の水位はO.P. 2, 090mm。
- Q. 2号機使用済燃料プールの温度を測定する温度計はスキマサージタンクに設置されているので、必ずしも正確な温度が測定できているわけではないと聞いたが、現在は実測値を測定できているのか。
- A. 現在、使用済燃料プールはほぼ満水で、溢れた水がスキマサージタンクに流れ込んでいるため、ほぼ正確な値が測定できているものと考えている。
- Q. 海水循環浄化装置の電源の不具合を確認したのはいつか。また不具合の原因は。
- A. 本日午前中に通水試験を実施する際の確認段階で発見したものであり、原因は調査中である。

4

Q. 「福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について（第六十九報）」の一部訂正について海水核種の訂正の経緯は。

A. 昨日公表させていただき海水サンプリング結果について、沖合 15km 地点の測定結果に疑義を抱き、再確認した結果、間違いに気付いたもの。

Q. 魚介類の調査の見込みは。

A. 海水の調査を先行して実施しており、海生物の調査についても実施したいと考えている。

Q. 1号機原子炉水位の変動に関して、原因の一つとして挙げた「温度の膨張」とはどういう意味か。

A. 基本的には、今後、パラメータの様子を見る必要があると考えている。水位は数ミリ単位で変化しており、温度変化によって水の体積が膨張・収縮したりすることも考えられる。漏えいの可能性についても、現時点で明確に分かっていないが、少なくともタービン建屋側の水位は変化がない。

Q. 原子炉建屋の水が地下水に流れる可能性はないのか。

A. 現時点では地下水の方が水位が高いため、水圧は地下水の方が高い。

Q. 2号機使用済燃料プールの代替冷却装置は運転開始直後は比較的溫度が下がるが、その後は溫度が下がりづらいと聞いた。溫度が 40℃程度になるのは1ヶ月後というごとに変わりないか。

A. 使用済燃料プールの溫度が高いため、運転開始後1日から2日後は溫度が大きく下がるが、その後は使用済燃料プールの溫度が下がるとう熱交換の効率は下がるため、溫度の下降についても緩やかになる。

Q. 2号機使用済燃料プールの代替冷却装置の目的として、原子炉建屋内の水蒸気を抑えることがあったが、今後、2号機原子炉建屋内を調査する予定は。

A. 現時点で未定であるが、溫度の状況を見ながら検討したいと考えている。

Q. 原子炉建屋の入域は、使用済燃料プールの溫度が 50℃なら可能といった具体的な基準はあるのか。

A. 現時点で具体的な基準はないが、発電所にて溫度の状況を見ながら検討しているところ。

以上